

令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和7年4月17日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問調査）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問調査）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	人	算数	人	理科	人
第5学年	国語	人	算数	人	理科	人

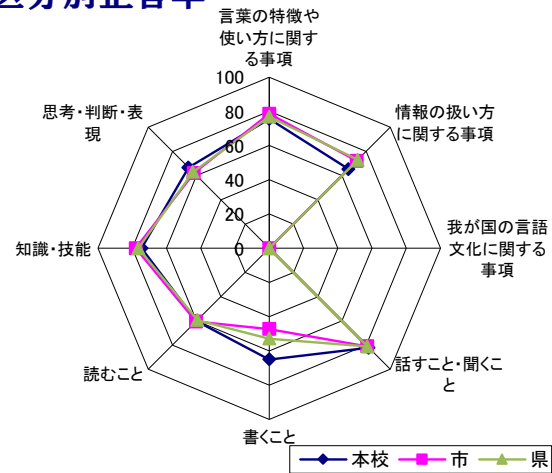
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立御幸小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	75.6	78.6	76.9
	情報の扱い方にに関する事項	65.4	72.2	73.1
	我が国の言語文化にに関する事項	0.0	0.0	0.0
	話すこと・聞くこと	82.2	81.0	81.1
	書くこと	64.9	47.2	52.8
観点	読むこと	60.1	60.5	59.3
	知識・技能	74.6	78.0	76.5
	思考・判断・表現	66.8	62.3	63.1



★指導の工夫と改善

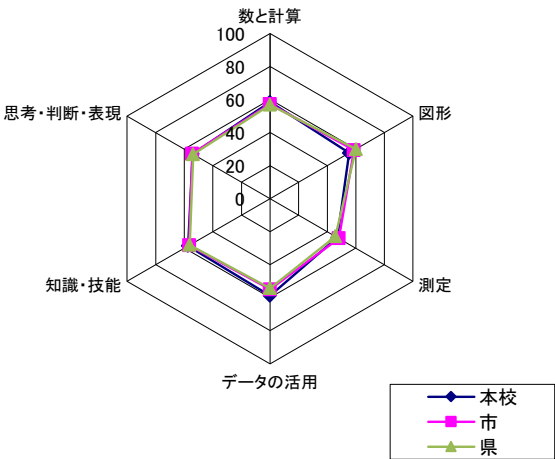
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は75.6%で、市の平均を3.0ポイント下回った。 ○漢字の読み書きは、市の平均と同程度であった。 ●主語と述語の関係を捉える問題の正答率は、市の平均を9.7ポイント下回った。また、ローマ字で表記されたものを読む問題の正答率は、市の平均を5.7ポイント下回った。	・新出漢字だけでなく、教科書の「漢字を使おう」のような復習単元や、AIドリルを活用し、3年生の漢字も繰り返し学習できるようにする。 ・朝の学習を活用し、主語述語について復習する時間を設ける。 ・タブレット端末を活用し、ローマ字入力で日記を書く機会などを設ける。
情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は65.4%で、市の平均を6.8ポイント下回った。 ●国語辞典の使い方を理解し、使うことができるかどうかをみる問題では、市の平均を6.8ポイント下回った。	・様々な場面で国語辞典を活用し、語彙力を高めながら情報活用力を高めていく。各種辞典についてはタブレット端末を使って、オンライン上の電子辞書を活用することもできるため、活動内容や形態に応じて利用していく。
話すこと・聞くこと	平均正答率は82.2%で、市の平均と同程度である。 ○話し手が伝えたいことの中心を捉える問題では、正答率が市の平均を2.9ポイント、司会者の話し方の工夫を捉えたりする問題では、正答率が市の平均を5.4ポイント上回った。 ●記述式の問題で、相手に伝わるように、自分の考えを理由を挙げながら話すことができるかどうかをみる問題の正答率は市の平均を5.8ポイント下回った。また、無回答率が9.6%であった。	・話し合いの中で相手の考えや論点に沿った発言をする力についてはついてきている。 ・自分の考えを理由を挙げながら話すことには課題が見られる。相手にわかりやすく伝わる話し方の型を示し、ペア学習やグループ学習などで自分の考えを伝える際に、型を意識させて話すようにさせる。
書くこと	平均正答率は64.9%で、市の平均を17.7ポイント上回っている。 ○指定された長さで文章を書く問題や、自分の考えを明確にして文章を書く問題などは、正答率が全て市の平均を大きく上回った。 ●全ての問題で、無回答率が11.5%であった。	・書くこと自体は、取り組めるようになってきているため、日記を書く際に、条件を提示して2段落以上の構成で書いてみるなど、段落の意識が高まるように工夫して取り組ませる。 ・作文を書く際には、いきなり文章を書き始めるのではなく、文章構成を整理してから書かせるようにする。
読むこと	平均正答率は60.1%で、市の平均と同程度である。 ○物語文においては、正答率が市の平均と同程度であった。 ●説明文において、情報と情報との関係について理解し、中心となる語や文を見付けて要約することができるかどうかをみる問題では、正答率が市の平均を12.5ポイント下回った。また無回答率が44.2%であった。	・本校の研究として、本に触れる機会を増やしたり、登場人物の様子や気持ちの変化を考える学習を繰り返し行ったりしたこと、読む力は伸びてきている。しかし読解力や要約する力には個人差があるため、学年や個人の発達段階に応じて授業の内容や言語活動を生かした授業づくりを行っていく。

宇都宮市立御幸小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	58.5	57.4	56.9
	図形	55.3	58.7	60.1
	測定	47.1	48.1	45.7
	データの活用	58.8	54.9	54.3
観点	知識・技能	57.4	56.6	56.2
	思考・判断・表現	54.1	54.5	53.8



★指導の工夫と改善

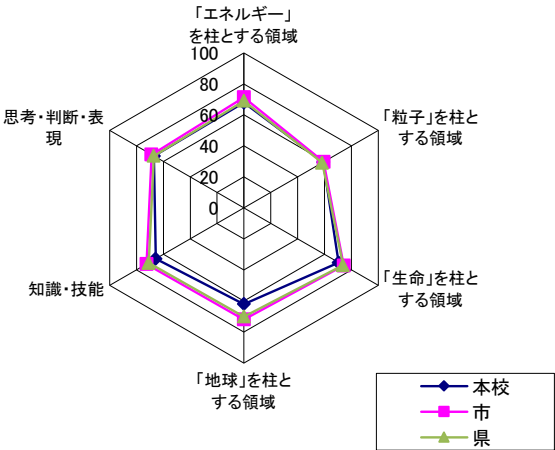
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は58.5%で、市の平均と同程度である。 ○小数の計算の正答率が市の平均より11.7ポイント上回った。 ●分数の数量理解の正答率が市の平均より8.3ポイント下回った。 ●数量の関係について口を使って表された正しい図を選ぶ問題の正答率が市の平均より9.8ポイント下回った。	・整数と小数、分数の関係について、数直線を使って視覚的に理解する活動を行ったり、小数を分数で表したり、整数を分数や小数で表したりするなど、数量の関係について理解を深めていく。 ・文章題の問題を授業で扱う際には、文章から必要な情報を読み取って対応数直線をつくり、対応数直線から口を使った式の立式をする活動を行うことで、図と式がつながるようにしていく。
図形	平均正答率は55.3%で、市の平均より3.4ポイント下回った。 ○正三角形の作図の正答率が市の平均より3.4ポイント上回った。 ●球を平面で切った時の正しい切り口を選ぶ問題の正答率が市の平均より6.2ポイント下回った。また、箱の横の長さから球の半径を求める問題が6.5ポイント下回った。	・円や三角形の学習では、作図の方法を図形の特徴と関連付けて捉えさせ、定規やコンパスを用いて図形をかいたり確かめたりする活動を充実させる。 ・AIDリルや朝の学習の時間を活用して、円の性質に関連する応用問題に取り組むようにする。
測定	平均正答率は47.1%で、市の平均と同程度である。 ●時刻と時間の問題の正答率が市の平均より3.3ポイント下回った。 ●単位をそろえて2つの道のりの和を比べ、どちらのほうが短い説明する問題の正答率が市の平均より3.3ポイント下回った。	・長さや道のりの学習では、身の回りにある物を計測する活動を取り入れたり、生活の中で使われている場面を想起したりすることで、単位と実際の長さを結び付けながら実感をもって理解できるようにする。 ・他教科との関連を図りながら、身近な物や時間を計測する活動を意図的に設けていくことにより、長さや時間についての量感を身に付けさせていく。
データの活用	平均正答率は58.8%で、市の平均より3.9ポイント上回った。 ○二次元の表の合計欄に当てはまる数を答える問題の正答率が市の平均より14ポイント上回った。 ○データの活用に関連する3つの問題の無回答率がどの問題も市の平均より10ポイント以上下回り、時間内に最後の問題まで取り組んでいる児童が多い。 ●目的に合わせて選んだ棒グラフが適切である理由を選ぶ問題の正答率が市の平均より6.9ポイント下回った。	・社会科や総合的な学習の時間のまとめなどで、実際にグラフを読んだり、かいたりする活動を取り入れ、実生活と算数科のつながりを意識させていく。 ・グラフや表などの資料を、問題解決のために活用する力を高めるために、資料の読み取りに終始することなく、グラフの特徴を考察したり説明したりする活動を設定していく。

宇都宮市立御幸小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	68.0	71.4	69.1
	「粒子」を柱とする領域	59.1	59.3	58.3
	「生命」を柱とする領域	70.6	74.5	73.8
	「地球」を柱とする領域	62.0	72.0	70.1
観点	知識・技能	65.7	72.5	70.9
	思考・判断・表現	67.0	68.8	67.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は68.0%で、市の平均より3.4ポイント下回っている。 ○磁石の異極引き合い、同極は退け合うことについて理解しているかどうかをみる問題では、正答率が市の平均を5.3ポイント上回っている。 ●ゴムの本数を増やして実験した結果を適切に表しているグラフを選択できるかどうかをみる問題では、正答率が市の平均を18.1ポイント下回っている。	・実験結果を分かりやすく整理する活動を通して、磁石につくものやゴムの本数と車が移動する距離の関係などをしっかり理解させる。また、話し合い活動を取り入れ性質をもとに実験結果を予測できるようにしていく。 ・授業の導入や振り返り時にAIDリル等を用いて、知識の定着を図る。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は59.1%で、市の平均と同程度である。 ○粘土の形の違いによる重さの変化について、予想を基に実験結果を構想できるかどうかをみる問題では、正答率が市の平均を7.6ポイント上回っている。 ●複数の物の重さを同じにした時の、体積のちがいについて考えることができるかどうかをみる問題では、正答率が市の平均を7.8ポイント下回っている。	・実験結果を数値だけで理解するのではなく、自分なりの粒子イメージで図に表す活動等を取り入れ、「なぜ変化しないのか」「なぜ同じ重さなのか」を理解させる。 ・実験結果を図や表にまとめ、そこから分かることを話し合い、自分の言葉でまとめる活動を行う。 ・授業の導入や振り返り時にAIDリル等を用いて、知識の定着を図る。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は70.6%で、市の平均より3.9ポイント下回っている。 ○モンシロチョウとトンボの育ち方の違いを捉えることができるかどうかをみる問題では、正答率が市の平均を9.1ポイント上回っている。 ●クモとモンシロチョウの体のつくりやあしの数と比較し、クモが昆虫であるかを判断できるかどうかをみる問題では、正答率が市の平均を15.9ポイント下回っている。	・昆虫と他の生き物の体のつくりの違いや特徴について、図や絵で視覚的に示し理解が深まるようにする。生き物の成長の変化についても、シャッフルした「成長カード」を正しい順番に並べ替えさせる活動等で知識の定着を図る。 ・授業の導入や振り返り時にAIDリル等を用いて、知識の定着を図る。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は62.0%であり、市の平均より10ポイント下回っている。 ●温度計の使い方が身についているかどうかを見る問題では、正答率が市の平均を20.3ポイント下回っている。 ●日なたと日かげについて見いだした問題に正対した記録を選べるかどうかをみる問題では、正答率が市の平均を9.1ポイント下回っている。	・日なたと日かげの地面の温度の様子を調べる実験では、予想をきちんと行った上で実験に取り組ませるとともに、温度計の使い方などの技能面の確認をしたり、結果を自分の言葉でまとめ話し合う活動を取り入れたりする。 ・授業の導入や振り返り時にAIDリル等を用いて、知識の定着を図る。

宇都宮市立御幸小学校 第4学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「教科などの学習は、しょう来のために大切だと思いますか」の質問では、全ての教科において肯定的回答が9割を上回った。また、「しょう来のゆめや目標をもっている」の質問では、県の平均を6.1ポイント上回り、「家の人としょう来のことについて話すことがある」の質問では、県と同程度の肯定回答率だった。本校の重点目標である「キャリア教育の推進」について、引き続き家庭と学校とで連携を図りながら進めていきたい。

○「漢字の読み方や言葉の意味が分からないときは、辞書を使って調べている」の質問では8.5ポイント、「分からない国名や地名があったら、インターネットや地図帳などを使って調べている」の質問では、11.4ポイント県の平均を上回っている。本校で取り組んでいる本に親しむ活動や学校図書館を活用した授業の取組の成果と考えられる。引き続き、図書資料を活用しながら、主体的に課題を解決できる児童の育成を図りたい。

○「1カ月に、何さつくらい本を読みますか(教科書や参考書、まんがやざっしをのぞく)。」では、「11冊以上読む」の回答が18.9ポイント県の平均を上回っている。また、「学校の授業時間外に、ふだん(月～金)、一日当たりどれくらいの時間、読書をするか(教科書や参考書、まんがやざっしをのぞく)。」では、1日当たり30分以上読書をする回答する割合は県の平均と同程度であった。朝の読書の時間やボランティアによる読み聞かせ、週1回のクラスでの図書室利用、各学年に応じたチャレンジブックなど、本校の読書推進活動の成果が表れてきたのではないかと考えられる。

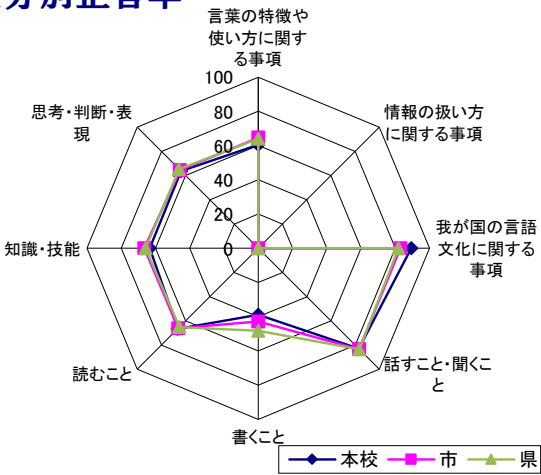
●「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」では11.3ポイント、「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」では9.9ポイント、「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」では13.1ポイントと県の肯定的回答を上回っている。また、「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まできくことができる」では肯定的回答が100%であった。しかし、「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」では、県の肯定的回答を8.3ポイント下回っている。児童が自分の意見を持てるような授業づくりに努めるとともに、発表の場を工夫し友達と意見を交換する楽しさやよさを実感できるように工夫していく。

●「自分には、よいところがあると思う」や「むずかしいことでも、失敗をおそれないでちょう戦している」では、やや県の平均を下回っている。本校の「みゆきっ子パワーアッププロジェクト」の自他のよさを認め合う集団を目指し、個々のよさや頑張りを認め励まし合う声掛けをする等、自己肯定感を高めていきたい。

宇都宮市立御幸小学校第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	60.5	64.7	64.1
	情報の扱い方にに関する事項	0.0	0.0	0.0
	我が国の言語文化にに関する事項	89.4	83.1	81.9
	話すこと・聞くこと	83.0	83.3	83.4
	書くこと	38.8	42.8	48.2
観点	読むこと	66.5	66.1	65.1
	知識・技能	63.4	66.5	65.9
	思考・判断・表現	63.7	64.6	65.5



★指導の工夫と改善

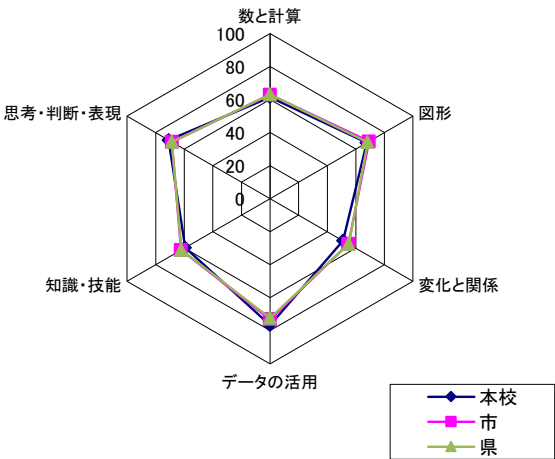
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は60.5%で、市の平均より4.2ポイント下回っている。 ●漢字を正しく読む・書くどちらの問題についても、市の平均より10ポイント以上下回るものがあった。	・漢字の書き取り能力については、ドリルやプリントを活用し、繰り返し取り組んだり、ミニテストで定着を確認したりしながら学習を進めていく。国語の学習だけでなく、生活の中や他教科で積極的に漢字を使うことができるようにしていく。 ・文法については、AIドリルや復習プリントの効果的な活用方法を工夫し、学習内容の定着を図る。
我が国の言語文化にに関する事項	平均正答率は89.4%で、市の平均を6.3ポイント上回っている。 ○ことわざの意味を理解して自分の表現に用いる問題は、市の平均より6.3ポイント上回った。	・単元ごとに新しく触れる言葉の意味調べを取り入れることで辞書の活用を促し、言葉への興味関心を引き続き高めていく。 ・読書活動を通して語彙力を高める。
話すこと・聞くこと	平均正答率は83.0%で、市の平均とほぼ同程度である。 ○話し合いの内容を聞き取り、自分の考えをまとめる問題は、市の平均と同程度であった。 ●話し合いの目的を確認し、意見の共通点や相違点に着目しながら、自分の考えをまとめることができるかどうかを見る問題は、市の平均よりも4.9ポイント下回った。	・授業中においてペアやグループ、全体など、学習形態を工夫した話し合い活動を多く取り入れる。 ・自分の考えとの共通点・相違点を意識しながら聞き取ったり、自分の考えを筋道立てて分かりやすく話したりする活動を取り入れ、話す・聞く力を付けていく。
書くこと	平均正答率は38.8%で、市の平均より4ポイント下回った。 ○内容の中心を明確にし、事実を伝える文章を書く問題では、市の平均より3.9ポイント上回った。 ●段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書く問題では、市の平均より13ポイント下回っている。また、無回答の割合については、市の平均より	・朝の学習を活用し、テーマと文字数など、条件を決めて文章を書く機会を設ける。 ・書いた文章を発表し、感想を述べ合う活動を通して、書く楽しみに気付かせる。 ・授業の振り返りを文章で書いたり、行事において振り返りを書く機会を意図的に設けたりすることで、書くことに対する苦手意識を減らしていく。
読むこと	平均正答率は66.5%で、市の平均とほぼ同程度である。 ○登場人物の気持ちを具体的に想像することができるかどうかをみる問題では、市の平均より8.5ポイント上回っている。 ●場面の様子について、発言者を捉える問題は、市の平均より11.2ポイント下回っている。	・日常の読書活動や並行読書を通して、様々な文章に慣れさせ、読解力を向上させていく。 ・長文読解については、自分で見付けた物語の面白さを互いに伝え合う活動を取り入れることで、読み物の楽しさを理解し、長文に慣れさせる。

宇都宮市立御幸小学校 第5学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	61.5	63.0	63.3
	図形	67.6	69.2	68.3
	変化と関係	51.1	54.8	55.0
	データの活用	76.6	73.1	72.3
観点	知識・技能	59.4	62.3	62.1
	思考・判断・表現	70.9	68.7	68.7



★指導の工夫と改善

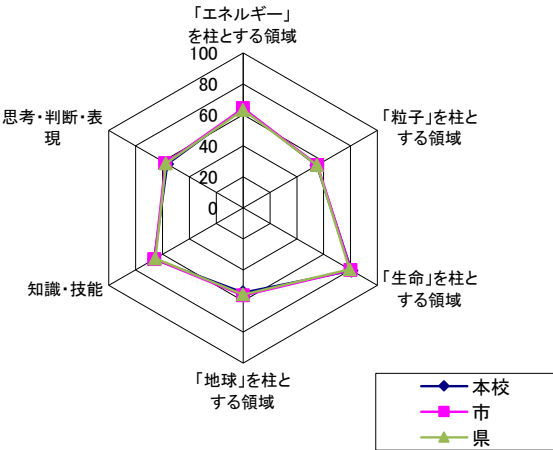
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は61.5%で、市の平均と同程度であった。 ○式の意味を表したものとして、正しい図を選ぶ問題では、市の平均より11.7ポイント上回っている。 ○大きい数の仕組みについて考える問題では、市より9.2ポイント上回っている。 ●小数第二位×整数の計算問題では、市の平均より23.8ポイント下回っている。	・小数×整数の計算については、授業で具体物や図、数直線でイメージを掴ませたり、小数の意味について再度問い直したりするなどして、計算の仕方を復習できるようにする。 ・計算を定着させるために、計算ドリルやAIドリルを活用し、繰り返し取り組ませる。
図形	平均正答率は67.6%で、市の平均と同程度であった。 ○ものの位置の表し方から、もとにする位置を選ぶ問題は市より2.7ポイント上回っている。 ●三角定規を組み合わせてできた角の大きさを求める式を選ぶ問題では、市の平均より7.5ポイント下回っている。	・三角定規のそれぞれの角度についての定着を図るため、適宜授業内で確認するなどして取り扱っていく。 ・実際に三角定規を使った操作的な活動を通して、どの角度を使って、どの計算をすれば求められるのか考えられるようにする。
変化と関係	平均正答率は51.1%で、市の平均より3.7ポイント下回っている。 ●表を縦に見て、伴って変わる2つの数量の関係を読み取る問題は市の平均より5.5ポイント下回っている。 ●割合を使った長さの求め方を説明する問題では、市の平均より5.6ポイント下回っている。	・身近な例を取り上げ、実際に数量の関係を読み取ることで、子どもたちが意欲的に考えられるようにする。 ・変わり方を自分の言葉で説明できるよう、ペア活動やグループ活動を積極的に行い、考えを確実なものにしていく。
データの活用	平均正答率は76.6%で、市の平均より3.5ポイント上回っている。 ○二次元の表の空欄の数を答える問題では、市の平均より10.8ポイント上回っている。 ○折れ線グラフと棒グラフの複合グラフを読み取る問題は、市の平均より5.8ポイント上回っている。 ●折れ線グラフの傾きから変わり方を読み取る問題では、市より5.8ポイント下回っている。	・グラフの傾きと変化の関係を結びつけるために、子ども自身が考えを言葉にする話合いの場を多く設ける。 ・複数のグラフを比較させ、それぞれの特徴や傾きの度合いを意識させて、グラフの読み取りの習熟を図る。

宇都宮市立御幸小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	64.1	64.3	63.2
	「粒子」を柱とする領域	54.8	55.4	55.1
	「生命」を柱とする領域	80.8	80.1	79.3
	「地球」を柱とする領域	54.6	56.4	55.8
観点	知識・技能	66.1	66.0	65.3
	思考・判断・表現	56.5	57.9	57.4



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率64.1%で、市の平均とほぼ同程度である。 ○図で示された回路から電流が流れない理由を考える問題では、平均正答率が市の平均より5ポイント以上上回っている。 ●乾電池の数やつなぎ方が異なる3つの回路のうち、プロペラが同じ速さで回転する回路の組み合わせを選ぶ問題では、市の平均より7.9ポイント近く下回っている。	・実験器具の使い方や名称についてしっかりと学習して実験に臨めるようにする。特に回路のつなぎ方については、直列回路や並列回路について、検流計を使って確認しながら、各回路に流れる電流の強さについて理解を深めるようにする。また、AIDリルの活用によって繰り返しの学習により知識の定着を図る。 ・テスト後においてもパワーアップシート等を活用して復習することで、基礎基本の定着を図っていく。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率が54.8%で、市の平均とほぼ同程度である。 ○ピストンを使って閉じ込めた空気を圧したときの手ごたえの変化を問う問題では、正答率が90%を超え、市の平均より2.1ポイント以上上回っている。 ●コの字の形をした金属板を熱したときの熱の伝わり方を問う問題では、市の平均より10.6ポイント下回っている。	・実験の結果から分かったことを読み取り、まとめる活動の際に、身近なことに関連付けて理解を深めていく。 ・変化を比較する実験においては、実験前にどう変化するか予想を立てたり、方法を考えたりする活動を取り入れ学び合いの充実を図っていく。 ・目に見えにくいものについての推測は、難しいと思われる。粒子を図で表したり、教育的動画やタブレット等を活用したりして理解を深めていきたい。
「生命」を柱とする領域	平均正答率が80.8%で、市の平均とほぼ同程度である。 ○夏に記録されたサクラの様子を示した図を選ぶ問題では、正答率が97.8%で市の平均よりも6.5ポイント上回っている。 ○昆虫やカエルの越冬について適切にまとめられた考察選ぶ問題では、正答率が95.7%で市より6.9ポイント上回っている。 ●骨のはたらきとして正しいものを選ぶ問題では、市の平均より5.4ポイント下回っている。	・植物の成長やようすにおいては、学校の畑や校庭のサクラの木、中庭などを理科の時間等に葉や花などポイントを示して観察し、その後の変化にも興味をもてるようにする。今後も、実物の観察する機械を十分に設けていきたい。 ・骨のはたらきに関連する重要な用語(骨格や関節)について、標本や実際に関節を動かすなどして繰り返し確認し、子どもたちが正確な意味を理解しているか確かめる機会を設ける。 ・AIDリルやプリントの学習を宿題に出すなど、学習内容を確実なものにしていく。
「地球」を柱とする領域	平均正答率が54.6%で、市の平均と同程度である。 ○水が水蒸気になって空気中に出ていく現象の名称を答える問題では、市の平均より11.7ポイント上回っている。 ●1日の気温の変わり方を示したグラフを適切に読み取る問題では、市の平均より9.8ポイント近く下回っている。	・デジタル教材などの映像で、視覚的に児童の理解を高めていく。 ・毎日、決まった時間に学校の様々な場所(日なた、日陰、風通しの良い場所など)で気温を測り、記録する活動を継続的に行い、実感を持たせるようにする。 ・学習の中で科学的な視点を提示し、それをもとに実験や観察結果をまとめたり、考察したりすることで、学習内容を理解し説明できる力が付くよう支援する。

宇都宮市立御幸小学校 第5学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「1か月に、何さつくらい本を読みますか」の質問項目では、県の肯定回答率を6.5ポイント上回っていた。国語科での教科書に関連した並行読書や、読んだ本を基にしたポスター作りなど多様な表現方法を用いることで、さらなる語彙力や表現力の向上につなげたい。

○「クラスは発言しやすい雰囲気である」の質問項目では、県の肯定的回答を4.5ポイント上回っている。児童が発言しやすい雰囲気であることは、安心して自分の意見を表明できる、心理的に安全な学習環境が醸成されていると考えられる。発言しやすい雰囲気は、児童の学習意欲を高め、主体的な学びを促進することにつながっていく。この強みを活かし、今後はより活発な議論や深い学びを促すための指導を工夫していくように努めていく。

○質問項目の「テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ている」では6.1ポイント、「地域や社会で起こっている問題やできごとに関心がある」では2.8ポイント、県の肯定的回答を上回っている。児童の社会への関心の高さと情報収集意欲の表れとして、主体的に課題を捉え解決しようとする力が育まれてると捉える。今後は情報リテラシー教育も強化し、児童が多様なニュースに触れているからこそ、その情報の真偽を見極める力や、多角的な視点から物事を捉える力を養うための指導をしていきたい。

●「家で、学校の授業の復習をしている」「家で、テストで間違えた問題について勉強している」の質問項目では、それぞれ県の肯定回答率を34.2ポイント、24.9ポイント下回っていた。家庭学習については、「できなかった問題」や「苦手に思っている問題」をそのままにしておかないことを指導し、「復習」を重点とした家庭学習の方法を提示し、取り組ませるようにする。また、「家庭学習ががんばり週間」に全校で取り組み、家庭と連携を図りながら児童の学習習慣の定着に取り組んできた。

●「ふだん(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビやDVD、動画などを見たり、聞いたりしますか。(テレビゲームはのぞく)」「ふだん(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、けい帯式のゲーム、けい帯電話やスマートフォンを使ったゲームをふくむ)をしますか。」「ふだん(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、けい帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか。(けい帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間をのぞく)」の3つの質問項目において、4時間以上と答えた児童が殆どだった。これは、県の肯定的回答率を全て上回っている。デジタルメディアを長時間使用することで、視力低下や睡眠不足、集中力の低下、運動不足などの悪影響があることを繰り返し伝えたり、時間制限がなぜ必要なのかを考える時間を設けたりすることで、使う時間や場所のルールを決めることの大切さを理解して使っていけるよう、家庭とも連携して取り組んでいきたい。

宇都宮市立御幸小学校 (第4・5学年共通) 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎的・基本的な知識 ・技能の確実な定着	・読書活動の充実 ・朝の学習「ぐんぐんタイム」の充実 ・スマイルネクストドリルの活用 ・「宮っ子ステップアップシート」の活用	・国語では、「言葉の特徴や使い方に関する事項」の領域において市の平均を下回った。 ・算数では、「図形」や「測定」の領域において市の平均を下回った。
言語活動の充実	・図書館教育の充実 (並行読書、ビブリオバトル、読み聞かせ等) ・児童同士が共に学び合う交流の場を設定	・「話すこと・聞くこと」の区分においての問題では、4年生・5年生とも市の平均と同程度であった。5年生に関しては、「書くこと」が市の平均より4ポイント下回っている。
話し合い活動・学び合いの場の充実	・必然性のある課題と場の設定 ・学習形態の工夫(ペア、グループ、机の配置) ・児童の考えをつなぐ教師のコーディネート等の支援	・話し合い活動において4年生に関しては、自分の意見を話すことに課題が見られる。また、5年生に関しては、話しやすい雰囲気であると感じている児童が多いが、友達の意見を聞くことへの課題が見られる。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・国語の「書くこと」に関しては、学年差も見られたので、学校全体として取り組んでいきたい。 ・より基礎基本的な学習内容の定着を図っていきたい。	・文章の読み取り、文法問題への苦手意識取り除く。 ・図形や数量に関する理解を深める。	・国語科における並行読書、ワークシートの活用等を通して、語彙力を高めていく。 ・学年ごとの学習プリントセットを用意し、学年またはブロック間で共有することで、繰り返しの学習、復習としての学習を充実させる。